

A0122
国鉄151系 特急「こだま」 増結4両セット

主な走行都市



製品の仕様・価格・発売時期は予告なく変更する事がありますので、予めご了承願います。

品番	A0122				
JANコード	102510				
商品名	国鉄151系 特急「こだま」増結4両セット				
商品系形態	塗装済完成品				
素材	ABS樹脂				
予価	11,800円				
発売予定					
規格	N				
対象年齢	8歳以上				
カートン内入数	12				
実車	<p>1956年東海道本線の全線電化開業に伴い電車による特急列車が計画され、1958年11月1日特急「こだま」が誕生しました。特急「こだま」は東京-大阪間を日帰り可能なビジネス特急として、20系(後に151系へ改称)24両を新製して、東京-大阪間を6時間50分で結びました。特急「こだま」の人気は高く1959年には12両編成となり、1960年に客車特急「つばめ」・「はと」の電車化により従来の展望車に代わる「パーラーカー」クロ151が登場し、東海道のクイーンの座を確立しました。東海道新幹線開業後は、直流電化区間の特急として幅広い活躍を続けていました。特急「こだま」の栄光は、この形式の成功なくしては語れないわが国の鉄道史に輝く車両のひとつで、独特のボンネットスタイルはその後登場した数多くの車両のデザインに大きな影響を与えました。</p>				
商品	<p>製品化要望の高かった国鉄特急型電車の始祖であるモハ20系(後の151系)を製品化大阪方に優等車が5両も連結している全盛期の編成を再現 サロの妻板は簡易運転台の有無を作り分け(木箱セットは改造後の運転台取り付け車をサシの側面手すりの有無を作り分け(木箱セットは手すり付きの後期車) モハシの側面窓配置を作り分け(木箱セットは後期車) モハ妻板はダクト付きの後期車 行先サボ・号車札印刷済 A0121 基本8両セットに組み込むと、12両フル編成が再現できます ヘッドライト・テールライト点灯(ON←→OFFスイッチ付き) 黒染車輪採用</p>				
パッケージ	4両用ブックケース				
オプション対応	トミックス 室内灯#0751/0781/0785 トミックス TNカプラー#0334(先頭部には対応しません)				
関連商品	A0121 国鉄151系 特急「こだま」基本8両セット				
編成	5号車	サロ151-1	8号車	モハ151-1	パンタグラフ・モーター車
	7号車	モハシ150-1	9号車	サハ150-1	